

# 星屑

1996年 12月  
No. 261



熊本県民天文台

連続天文台小説

「シリウスよいも纏いて」

第10話 君はやわらかな陽ざしの中で……

井手幸子

10月初めのある金曜日、沢木と岩永は毎年恒例の写真展が2ヶ月後に近づいてきたので、写真を撮りに天文台に来ていた。西の空には地平線近くのオレンジ色から群青色への鮮やかなグラデーションをバックに、白く細く光る月が太陽を追いかけるように傾いていた。二人は一編の詩のようなその夕暮れを眺めながら、今夜は雲一つないし星が最高に綺麗だろう、お客さんたくさん来るかな、などと話していた。

夜の帳もすっかり降りて、「寒くなったなー」と沢木は思いながら、座り込んでぼーっと空を見上げていた。「そういえば、もう少しであの白石めぐみに会って1年になるんだな、しばらく会っていないけれど彼女は元気だろうか、……会いたいな。」とその時、車の音がして沢木は現実引き戻された。そうそう、仕事仕事。

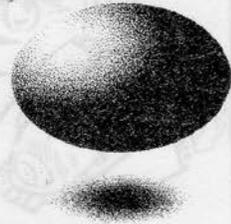
2台の車が天文台の前の駐車場に入ってきた。車が駐車場に止められた途端、車のドアから転げるようにわらわらと子供が出てきた。その様子を上から見ていた岩永が、「にぎやかになるぞー」と沢木に言った。天文台のドアを開けて子供たちが「今晚は」と大きく元気な声をあげて階段を上ってくる。一人、二人、……六人の子供たちの後からゆっくりと二人の女性が上がってきた。沢木はびっくりした。品のよい老婦人と白石めぐみだったのである。「おいおい、うそだろう。そんな物語みたいだな。」と、沢木は思った。逸る心を抑えながら、沢木は「今晚は。」

と、二人に声をかけた。その時岩永は……子供たちに埋もれていた。階段を上りきった所からぱっちり見える位置に立っていたので「あー、あの時のお兄ちゃんだー」

と子供たちに飛びつかれたのである。沢木は望遠鏡の後ろにいたので子供たちからは見えなかった。で、タイミング良くめぐみたちに声を掛けることができたのである。老婦人が岩永に抱きついて子供たちに「お兄ちゃんのお仕事を邪魔してはなりませんよ。」

と声をかけた。めぐみはその老婦人を自分の勤めている保育園の園長先生だと紹介した。

「星を見たいって言う子が多くって、私の車だけじゃ足りなくて車を出してくれるよう園長先生に頼んだの。」



と、めぐみは言った。

「いつも子供たちと白石先生がお世話になってます。」

と、園長先生は沢木に頭を下げた。

沢木は望遠鏡を動かし始めた。

岩永は子供たちとしゃべっていた。

「今夜はいい空ですよ。星もいっ  
つになく見えてるような気がします。

ちょっと寒くなりましたけどね。」

沢木は、めぐみに声をかけた。

「もうすぐ保育園の運動会なんです。最近ずっと夜遅くまで準備をしていて、子供たちに星が見たいとせがまれても忙しくてここに連れてくること  
ができなかったんです。本当、今夜はいい星空ですね。」

とめぐみは答えた。

「運動会ですか。準備とか大変でしょう。僕は運動会の準備のテント張り  
とか、椅子並べとかで授業が休みになるのがうれしかったんですけど。」

沢木は笑いながらそう言った。

「ええ、本当に白石先生には夜遅くまで仕事をしていただいて。小さな保  
育園とはいえ、揃えるものは揃えなくてはなりませんね。今日は、入場・退  
場門の柱を建てましたの。女の先生ばかりだから大変で。」

と、園長先生も笑いながら言った。

「明後日の日曜日の運動会の為に、明日は使う道具の最終点検と運動場に  
白線引きをするんです。大変だけど、楽しく走ったり競技したりしている子  
供たちを見ると、がんばってよかったなって思うんです。」

と、めぐみは園長先生に言った。とその時、

「沢木ー、明後日の日曜日、暇だよなあ。」

と岩永が沢木に声をかけた。

「ああ。どうした？」

「いやー、S保育園の運動会、見に行くことになったから。」

「えっ？」

わらわらと、子供たちが沢木の方にやってきた。

「ねえ、ほんと？お兄ちゃんも応援に来てくれる？」

どうやら岩永は沢木たちが話していたのと同じことを、別の意味で子供たち  
と話していたらしい。（「甘えられて断れなかったんだろう。俺には何かにつ  
け容赦なくパフェを奢らせるくせに、子供には甘いんだから。……そ  
うだ！」）沢木はめぐみたちの方を見て、

「それなら、何かお手伝いすることはありませんか。大学生の男二人が保  
育園の運動会を眺めてるって、何か怪しいですよ。もし、よろしければ。」

と言った。

「本当なら『お気持ちだけで』と言うんでしょけれど、大きな道具の準備とかを複数の先生にお願いしてしまうと子供たちの方が留守になってしまわずしねえ。お二人とも子供たちにも好かれているようですししっかりしていらっしゃるから、お言葉に甘えさせてもらおうかしら。」

と園長先生は言った。そういうわけで沢木と岩永は子供たちの応援がてら手伝いに行くことになった。星を見た後階下に降りて二人はS保育園までの地図を書いてもらい、子供たちを見送りに外に出た。めぐみは、

「我が儘を言ってごめんなさいね。」

と、二人に言った。2台の車を見送った後、

「沢木一。うーん、ちょっと強引だったかもしれないけど良くやった。でもそうなるように話を向けたのは俺だぞ。」

岩永は沢木の肩を叩いてそう言った。

日曜日が来た。朝、快晴、運動会日和。この前書いてもらった地図を頼りに二人は、沢木の運転する車に乗ってS保育園に向かった。保育園から少し離れたところにある駐車場に車を止めて、二人は保育園の門をくぐった。運動場にはテントが張られ、万国旗も縦横に張られていた。門から入ってきた二人を目にした、先生と思われる女性が「園長先生一、到着したようですよ。」と、奥に声をかけた。

「おはようございます。朝早くからごめんなさいね。お二人のことは他の先生に話しています。よろしくお願いします。詳しいことは白石先生から聞いてくださいね。」

と、園長先生は二人に挨拶すると奥に白石めぐみを呼びに入った。

スピーカーからは運動会で馴染みの曲が流れている。子供たちが楽しそうに走り回っている。沢木たちは・・・さっきの玉入れに使った籠と玉を倉庫に運んでいた。朝から二人は休む間なしに動き回っている。

「やっぱり、男の子がいると助かるわねえ。」

と言われるとがぜん張り切ってしまう。おまけに、子供たちが飛びついてきて腕にぶら下がったりするものだから明日は絶対筋肉痛だろう。

「ちょっと一息つこうか。」

倉庫に運び終わって、岩永が沢木に声をかけた。壁にもたれかかって、沢木は白石めぐみの姿を探す。運動場ではかけっこが行われていて、めぐみはゴールでテープを持っていた。沢木は仕事をしながらも目は常にめぐみを追っていた。青空の下で子供たちと活発に駆け回っているめぐみは、夜天文台に子供たちを連れてきている時の彼女とは違うように見えた。転んで泣きじゃくる子供をなぐさめたり、言うことを聞かない子供には頭を



撫でて優しく言い聞かせたり、一緒になって大きな声で応援しているそんな無邪気な彼女を見ると、今まで知らなかった新しい一面を知って沢木はもっとめぐみのことを知りたいと思った。沢木がふと横を見ると岩永がにやにやしながら自分を見ていた。

「さあ、いくぞ。」

沢木は岩永に声をかけた。

運動会も無事終了。子供たちも帰路について、大方の後かたづけも終わりあんなに子供たちの賑やかな声が溢れていた運動場は西日に照らされてひっそりしていた。

忙しかったけど楽しかったよなと、二人が黄昏ているとめぐみが後ろから二人に声をかけた。

「お疲れさま。どうぞ中に入ってくださいな。お茶にしましょう。」

と二人を職員室に案内してその片隅にあるソファに座らせた。

「ちょっと待ってて。今入れるから。紅茶でいいかしら。私、ミルクティーには自信があるの。大沢先生も飲みます？」

事務机に座っていた先生に声をかけて、奥にある給湯室に入っていった。めぐみの入れてくれた紅茶、それだけで沢木はドキドキした。しばらくして、めぐみはお盆の上に4人分のカップをのせて出てきた。大沢先生と呼ばれた先生の机の上に1つカップを置いて沢木たちの方へやってきて、二人の前にカップを並べ自分も向かいに座った。

「いただきます。」

二人はカップに手を伸ばした。一口飲んで沢木は

「これ、僕が今まで飲んだ紅茶の中で最高ですよ。」

と、めぐみに言った。すると向こうに座っていた大沢先生が

「そうよね、白石先生。ミルクティーには思い入れがあるものね。」

と、意味ありげに言った。めぐみはふっと窓の外に目をやった。その憂いを含んだ彼女の表情を沢木は見逃さなかった。



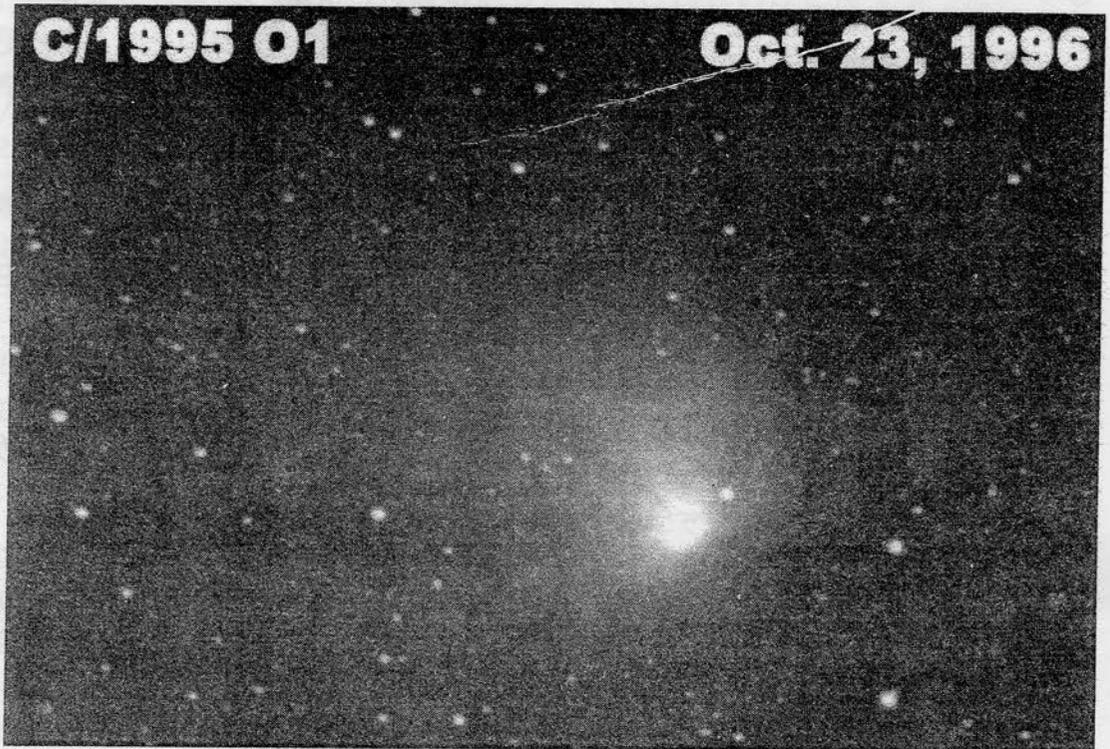
CCD REPORT

# COMET PAGE 1996-11

Porco Nisse

冷却 CCD カメラ無しには語れないこの COMET PAGE ですが、天文台で購入した TELERIS-400 は画像上に汚いノイズが目立つようになりました。そろそろ、オーバーホールが必要なようです。フィルムがない CCD カメラといえども永久に劣化がないわけではありません。故障もします。写せないときに限って新天体が出るんですよね、これが。ボヤキはこのへんで、今月もホーキ星たちを紹介しましょう。

★ C/1995 O1 (HALLE-BOPP)



この星は見かけ上太陽に近づいて西に低くなりましたが、また増光をはじめて 4 等台になりました。今後の変化に注目です。この明るさになると少々悪い条件でも十分見えますので、観測を続けたいところですが、熊本の悪天候には泣かされますねえ。ひまわり画像をみるといつも雲の通り道だもの。おかげで観測は多くありません。

★ 118P/Shoemaker-Levy 4 →

この星は木星に衝突した SL-9 と同じチームが 1991 年に発見した 4 個目の短周期彗星です。初めての回帰で来年 1 月に近日点を通ります。小さい星ながら短い尾が見えています。

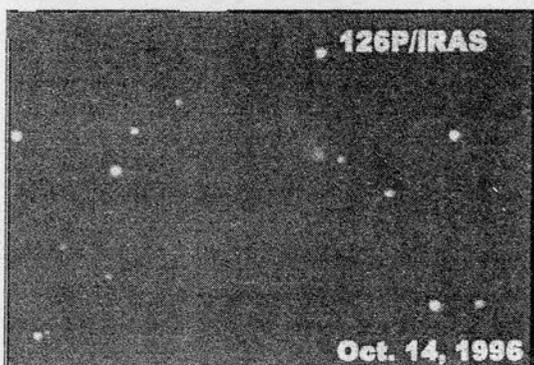




★ C/1996 Q1 (TABUR)

11月3日が近日点通過で増光が期待されていた彗星ですが、10月10日頃をピークに逆に減光してしまいました。活動が急速に衰えたようで、IAUセンターから「坂道を転げるように死にかけている」から観測するようにと注意が促されるほどでした。

ここに掲げる3枚は41cm反射直焦点で60秒露出した同じ条件の画像です。確かに淡くなっていくのがおわかりになるでしょう。核からの物質の放出が急に減少したように思えます。このまま消えてしまうのでしょうか？



★ 126P/IRAS

赤外線天文衛星 IRAS が見つけた短周期彗星の初回帰です。眼視光度は11等でした。

★ 57P/du Toit-Neujmin-Delporte

バーストを起こして明るくなったこの星もずいぶんと薄れてきましたがまだ写ります。

★ C/1996 N1 (BREWINGTON)

この夏、夕空で明るくなったこの星も9月になると急激に活動が衰えて、淡い拡散状になって写りが悪くなりました。ただし大きいコマのためか眼視では10等台と明るく観測されてました。



57P: 右下(南西)へ尾が広がっています。



C/1996 N1: 印刷では分かりにくいほど薄い星。

## アンドロメダの岩

## Andromeda's Rock

鮎島 敬昭

秋も深まり、アンドロメダ大星雲のボーっとした光が、私たちを宇宙の深みへと誘う季節がやってきました。秋の星座たちにまつわる古代エチオピア王家の物語は、あまりにも有名ですから皆さん良くご存じのことでしょう。

現代のエチオピアは、アフリカ大陸の東部、紅海がぐっとくびれて細くなりアラビア半島に沿って東に直角に曲がる所あたりにあります。こんなへんひな（私が勝手にそう思っている？）ところにある国に関する物語が、なぜ、秋の夜空を独占しているのでしょうか？星座の神話に詳しくてその理由をご存じの方がありましたら、是非教えて下さい。

勇者ペルセウスにしても、メデューサの首を取ったあとスペインとジブラルタル海峡を隔てた、アフリカの西端にそびえるアトラス山脈を経て（ここで、天空を支えていたアトラスを岩山に変えたことになっている）、なぜエチオピア経由で家へ帰ろうとしたのでしょうか？アトラスやエチオピアのあたりが当時の文明から見た「地の果て」だったという事なんですか？



いつも心のどこかに引っかかって隠れていたこんな疑問が、突然ワーッとわき上がってきたのには理由があります。私は突然、しかも予期せぬ場所で「アンドロメダの岩」に出会ってしまったのです。

その岩は、地中海の東の一番奥、エジプトからトルコへ向かって北へ延びる海岸線にありました。

1996年2月下旬、私はイスラエル最大の都市「テルアビブ」に到着しました。

早朝の到着でしたし、最初の仕事は当日の夕方の方の予定でしたから、ホテルで一休みしたあと、美しい海岸に沿って散歩に出かけました。ここはまるでハワイのワイキキビーチのような美しい海岸が数キロメートルにわたって続いています。5Kmほど南にヤッフオ (YAFO, JAFFA) と言う古くからの町と港があります。

聖書にも登場する古い港だそうで、歴史は紀元前18世紀にさかのぼり、紀元前1000年にはダビデ王のもとヤッフオに荷揚げされた品物がエルサレムに運ばれたそうです。その後十字軍、ついでアラブの侵略を受け、19世紀後半にヨーロッパからのユダヤ人の帰還者を受け入れるまでは完全にアラブ人の町だったところです。

現在、この町には多くの芸術家たちが住み、彼らの小さな工房が町のあちこちにあり、港を見下ろす丘への登り口には、石造りの時計塔「クロックタワー」が建っています。丘の上には石造りの建物群が建っていて、広場の地下には古代の遺跡をそのまま保存し

た資料館があります。ここの展示パネルにも、お化け鯨とアンドロメダとペルセウスを題材にした神話の一場面が、しっかりと描かれていました。

そして、この建物群の一角に海を見下ろすテラスがあって、そこから足下の地中海を見おろすことができます。

鉄柵のある入り口で一瞬戸惑いましたが、ここは無料で入ることが出来ます。周りの樹々が少し視界を妨げていますが、確かに海岸近くの海中にいくつかの岩礁が群がっていて、その中の一番大きいのがどうやら「アンドロメダの岩」(Andromeda's Rock)のようです。帰りによく見ると、入り口にはアンドロメダの岩が見えるテラスだと書いてありました。

アンドロメダとペルセウスの物語は、私自身何度も星座解説で話しているのですが、その岩がイスラエルにあり、地中海の大きな波に洗われていようとは、想像したことさえありませんでした。どうして「アンドロメダの岩」がこんな所にあるのでしょうか？



こうして、イスラエルでの私の2週間は、予想外の「大収穫」から始まりました。「大収穫」は、早速、次の朝の衝撃的な第二弾に続きました。そうです、一連の自爆爆弾テロが始まったのです。

2週間の滞在中に、合計3回、4個の爆弾が炸裂しました。最後の1個は、私が滞在していたテルアビブの町の中心部で、爆発しました。熊本でいえば鶴屋デパート前、下通りの入り口あたりでの自爆テロです。さすがに、その日の研修は最後の1時間分が取り止めになりました。講師の方のお兄さんが、爆弾の炸裂した場所のすぐそばで働いているとかで、しきりに連絡を取ろうとしていました。でも、パニックになっていて電話は全く通じませんでした。

さて、秋の初め9月に、仕事で出かけた名古屋で、一人のイスラエルから来た青年に出会いました。話が弾むうちに、話題がその「アンドロメダの岩」の事になりました。エチオピアの王家の神話に関わる岩が、なぜそこにあるんだろう？と、質問してみました。彼が言うには、「正確な事は知らないが、たぶん十字軍に関係があるのではないだろうか。ヤッフォの町は古くから栄えた町で、十字軍がやってきたとき拠点として大事な役割を果たした。彼らはあの丘の上からその岩を見て、きっとこれが神話で聞いていた岩に違いないと思ったことだろう。 . . . 」と。

Andromeda's Rock . . . .

星座物語やギリシャ神話の挿し絵から想像していたのより、少し小さめの岩だったけれど、私の心はその岩にしっかりと鎖で縛りつけられてしまったようです。

今年もあとわずか・・・。この間、正月大宴会をして、みんなに迷惑を掛けたばかりと思っていたら、また正月・・・。年の過ぎるのがとっても早い。

そんな事を言っていたら、あんた達が早い早い言いよるなら、俺達は崖っぷちば真っ逆様に進みよったい、てな話で盛り上がりました。

こんな話で盛り上がってどうする！！と言われそうですが、はー、年は取りたくないものです。さて、どーせ年は取るのですから忘年会はしっかりやって、天文台正月大宴会もしっかりやります。

### ☆ 12月の天文現象 & 行事 ☆

- 3日(火) 下弦(14:06)
- 7日(土) 大雪(05:14)
- 11日(水) 新月(01:56)
- 14日(土) トークアバウト(忘年会に変更の恐れあり!!)
- 16日(月) 水星が東方最大離角(20° 27' .4 光度 -0.50)
- 17日(火) 上弦(18:31)
- 21日(土) 冬至(23:06)
- 25日(水) 満月(05:41) クリスマス
- 31日(火) 大晦日

#### 事務局からのお詫び

先月号で会費未納のお知らせを致しましたが、当方の不手際で色々にご迷惑をお掛けいたしました。この場を借りてお詫びいたします。尚、会費は現在続々と納入されており、ご協力大変感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1996年12月号 通巻261号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

ホームページ [http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO\\_TST.HTML](http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML)